

〒183-0034 東京都府中市住吉町 4-47-16

Tel/Fax 042-354-3044

E-Mail [fuchu\\_nakagawara\\_church@hotmail.com](mailto:fuchu_nakagawara_church@hotmail.com)

HP <https://www.fuchu-nakagawara-church.com>

# 牧会書簡（付 ザンクト・ガレン信仰問 答 1527〔抜粋〕） / 日々の祈り

## 2020年5月17日（第八報）

牧会書簡等第八報をお届けします。例によって、礼拝説教は、5月31日のペンテコステまで連続して「復活と聖霊降臨」を主題にしています。既にその日までのすべての説教原稿を、第五報でまとめてお届けしていますが、実際には、週ごとに区切りをつけ、言葉を補いつつ語っています——先日のように、「補い」がまるまるひとつの説教となることもあり、未確定な点では不自由があるかもしれませんが、ご容赦ください）。使徒言行録2章を通奏低音に、ロマ書7～8章や創世記11章のみことばに聴いてまいりましたが、今週からは、詩篇、とくに第16篇に導かれる讚美礼拝へと向かって参ります。肉と霊・みことばによって主に結ばれた私たちは、兄弟姉妹と心からの声を合わせて歌います。家庭礼拝の日々にあっても、心を高く、私たちを主にあってひとつとする聖霊の導きを求めて祈り歌いましょう（どうぞ詩篇16篇を、ジュネーヴ詩編歌や、讚美歌〔54年版〕第14番の旋律によせた私の翻案で実際に歌ってみてください！）。

# 目次

## 目次

牧会書簡（8）敬愛する皆様へ～古くて新しい讃美告白に生きる喜び	1
<u>小会だより（簡略版）第5回小会における協議より、続報</u>	<u>6</u>
日々の祈り「隠れたことを見ておられる父なる神に」	7

## 牧会書簡（８）

### 敬愛する皆さまへ

～古くて新しい讚美告白に生きるべきこと（付：新訳 ザンクト・ガレン信仰問答第 1～5 問）

主の御名を讚美いたします。

人生にこれさえあれば他に何もいらぬ、と言えるものを持っている人は幸いです。そして、私たちは、そのように喜びをもって告白する、雲のように歴史と世界に充満する証人たちの声また声を知っています。教会のみなさんには、<sup>だいたい</sup>代々の牧師たちにならって機会があれば耳に<sup>たこ</sup>胼胝ができるほどお話ししてきたことですから、次の言葉は、信仰の先達や私の声も思い出しながら音読していただけることでしょう。

「問 1 人生の特に目指す目的は何ですか。

答 人をお造りになった神を知ることです。

問 2 そのように言う理由は何ですか。

答 神が私たちを創造され、この世界に置かれたのは、私たちによって御自身が崇められるためでした。しかも、私たちの生は神ご自身がその初めであられるのですから、神の栄光にこれを帰するのは当然であります。

問 3 では、人間の最高の幸いは何ですか。

答 それと同じであります。」（ジュネーヴ教会信仰問答、渡辺信夫訳）

「第 1 問 生きている時も死ぬ時も、あなたのただ一つの慰めは何ですか。

答 それは、わたしが、からだも魂も、生きている時も死ぬ時も、わたしのものではなく、わたしの真実な救い主、イエス・キリストのものであるということです。

## 牧会書簡（８）

主は、ご自分の尊い血によって、わたしのすべての罪を完全に償ってください、わたしを悪魔のすべての力から救い出し、天におられるわたしの父のみこころによらなければ、髪の毛ひとつもわたしの頭から落ちることがないようにと、実に、すべてのことが必ずわたしの救いに役立つようにと、わたしを守ってくださいます。

それゆえ、主はまたご自分の聖霊によって、わたしに永遠のいのちを保証し、わたしが、これから後は、主のために生きることを心から喜び、またそうすることができるようにしてくださいます。」  
(ハイデルベルク信仰問答、大浦勝訳)

「問[ 1 ] 人間の第一の目的は、何ですか。

答 人間の第一の目的は、神に栄光を歸し、永遠に神を喜びとすることです。」

(ウエストミンスター小教理問答、松谷好明訳)

「一 問 あなたは、何のために、生きていますか。

答 創造主（つくりぬし）である神を知り、神を愛し、神に仕えて、みさかえをあらわすためです。

二 問 創造主（つくりぬし）である神を知り、神を愛し、神に仕えて、みさかえをあらわすには、あなたはどうすればよいのですか。

答 イエス・キリストを信じることです。」（日本キリスト教会小信仰問答 1964 年版）

いかがでしょうか。翻訳や草案起草をしてくださった先生方の声や、それに先立つ改革者をはじめとして今に至る信仰共同体の声また声が、音読するみなさんの声と重なりあって心に響い

## 牧会書簡（８）

てこないでしょうか。あるいはかつて、洗礼や信仰告白に際して学び告白したときの、御自分のかつての声と今の声が重なり合う、と感じる方もあるでしょうか。そうでなくとも、つまりまだ洗礼を受けておられない方でも、いずれこのように公に言い表すことになる、そのような時の言葉を先取りするようにして教会の声を聴いておられる、ともあるいは言えるかもしれません。わたしは、苦難と試みの日に、このようにして「人生の目的」「最高の幸福」を確認することができることこそ、私たちの最高の喜びであると感じます。みなさんと離れるほどに、こうした声の響き渡る中で生きているという確信が新たにさせられているようで、私はけっして「腐る」ことがなく「新鮮（フレッシュ）」な生の喜びに満ちることができます。そして私がこの時に顔を思い浮かべている皆様も、この思いに「アーメン」といって、共鳴してくださるのではないかと思います。

さて、そのような皆様のために（そしてもちろん、本来とても弱い自分自身のためにも）、本日は、これらのよく知られた信仰問答に加えて、歴史の中に埋もれてしまい、少なくとも日本の教会にまではこれまで届いていなかったひとつの告白文書を拙訳にてご紹介し、同じ信仰に新しい声を重ねてみたいと思います。祈りや告白や讃歌を、文字どおりフレッシュに受け止める作業をすることは、やはり弱い私たちにとって大事なことです。そのような思いで、第五報ですでに公にしました説教原稿にあるとおり、私は古い詩編を新しく歌う試みをしようと思います。また、以下のとおり、忘れられた信仰告白文書を新しい翻訳で共有しようと思います。

ここで、「さわり」だけご紹介したいと考えている文書は、スイスのザンクト・ガレンという町で、すでにマルティン・ルターの「エンキリディオン（小教理問答）」に先立つ1527年に採用されていた、青少年のための信仰問答です。この町の宗教改革を指導したチューリヒのウルリヒ・ツヴィングリは、「異教徒」であるユダヤ人が青少年教育を重んじている姿に学んだルター同様、若い日の告白的研鑽をととても大切に考えていました。その時代に心に刻んだ祈りや歌や告白は、生きるにも死ぬにも私たちの慰めとなり、支えとなり、みちびきとなるからです。今日のお手紙をとおして、わたしは、この時代の転換期のあらゆる世代の「拠り所」となった言葉に学ぶことを奨励したいと考えました。

## 牧会書簡（８）

「さわり」部分だけとはいえ、いざ翻訳するとなると、当時のスイス方言のドイツ語であり、なかなか難しいところがありますが、宗教改革500年を記念した2017年に、スイスのチューリヒ神学出版（TVZ）から、注釈つきで決定版ともいべきものが出版されていますので、ずいぶん助けられています（まだ翻訳し始めたばかりのところですが）。本の題名につきましては、実際に当時の挿絵を切り取りデザインされた写真をご覧ください。やはり音読していただくと良いと思います。

『ザンクト・ガレン信仰問答～聖書に基づく青少年のためのキリスト教信仰の手引き』（1527年）より

「教師らや司牧者が問う：

1 きみは 何ものか。

わかものは 答える：

分別はあっても、死すべき神の一被造物です。

2 神はなぜ きみを 造られたのか。

答 わたしが あの方を知るべきであるため、そして愛をいただくことで

わたしが 幸いな者となるためです。

3 きみの幸いの基は、どこにあるのか。

答 主イエスに。

神の御子であられる

この方の土台の上に、みことばをとおして、わたしたちは建てあげられました、



## 牧会書簡（８）

根本たる三徳に 生きる者となるように。

4 根本たる三徳とは いずれのものか。

答 信※、愛、そして希望です。     〔※ 確信と信頼を伴う信仰の信実〕

5 [聖句をもって]証拠づけなさい。

答 聖パウロは、『イエス・キリストという既に据えられている土台を無視して、だれもほかの土台を据えることはできません』と言いました（コリントの信徒への手紙一 3 : 11）。一方で徳については、こう言っています。『それゆえ、信仰と、希望と、愛、この三つはいつまでも残る。その中で最も大いなるものは、愛である』と（同 13 : 13）。」

以上で「触り」だけのご紹介を終わります（いつか対面でごいっしょに続きを読みましょう）。この後、信仰問答は、信に関して「使徒信条」を、愛に関して「シェマー（聞け、イスラエル）の祈り」と「十戒」を、そして希望に関して「山上の説教の幸いの使信」と「主の祈り」、「マリアの讃歌（マニフィカート）」に触れたのち、「聖礼典」や「真理としての聖書の約束」に関する問答をなし、「神讃美・礼拝」へ、とくに「アロンの祝福」へと向かう構成となっています。いわゆる「三要文」を使徒信条（信）・十戒（愛）・主の祈り（望）の順番で、カルヴァンやのちの改革教会の強調点を先取りするかたちで展開し、律法から福音へというよりも、福音から愛に生きる生の具体性へと方向付けること、しかも子どもたちに教える形式でそれを成し遂げたこと。このことだけでも、小さくも偉大な本書は、忘れられるべきではない、とても大切な遺産だというべきです。

さて、わたしたちは、この危機の時代に、何を奪われても最後に残る人生の目的に立ち帰る作業をしています。先週の書簡でも引用しました新約聖書ローマの信徒への手紙 8 章 3 5 節を、今いちど思い起こしていただきたいと思います。

## 牧会書簡（8）

「だれが、キリストの愛（！）からわたしたちを引き離すことができます。艱難か。苦しみか。迫害か。飢えか。裸か。危険か。剣か。……これらすべてのことにおいて、わたしたちは、わたしたちを愛してくださる方によって輝かしい勝利を収めています。わたしは確信（＝希望をともなって信頼し、信仰）しています。死も、命も、天使も、支配するものも、現在のものも、未来のものも、力あるものも、高いところにいるものも、低いところにいるものも、他のどんな被造物も、わたしたちの主キリスト・イエスによって示された神の愛から、わたしたちを引き離すことはできないのです。」

アーメン！ 最後に残るものは、この、信・望あい伴う愛に生きるいのちです。神認識と自己認識が重なり合ったこの「いのち」を尽くした讃美礼拝において、私たちは主をあがめつつ幸いなものと呼ばれます。雲のような証人が歴史においてそう示してきたし、今も世界中の兄弟姉妹がそう生きているように、私たちも、かつてあり、今あり、永遠に私たちと共にいてくださる主に仕え、御前に祈り、讃え歌う日々を過ごしてまいりましょう！

2020年5月14日 府中中河原教会 牧師 大石周平

小会だより（簡略版・続報）：事後になり恐縮ですが、第5回小会で、礼拝休止期間延長にともない、献金の送金・振込を会員にお願いすることになり、会計担当からそれぞれご案内をお受けになったことと存じます。すでに、振り込みや送金をしてくださった方々が郵送しただけだったものを、牧師は感謝のうちに確認しております。5月22日（金）に会計担当長老が実務作業をした後、改めて小会として正式に受領の確認をする、という手順になります。確認作業に時間がかかりますことを、ご了承くださいますと幸いです。



## 日々の祈り～隠れたことを見ておられる父なる神に

教会による「日々の祈り」。今回は須藤洋子長老が「日々の祈り～隠れたことを見ておられる父なる神に」と題して整えてくださいました。合わせて日ごとに「主の祈り」を祈りましょう。希望をもって御名をほめ讃え、祈りに祈りを重ねましょう。

主イエス・キリストの父なる神様、御名を讃美いたします。

5月も半ばになり、間もなくペンテコステを迎えようとしております。兄弟姉妹とともに集い、礼拝を守ることも聖餐にあずかることもできませんが、それぞれが主の恵みのうちに、祈り、讃美を捧げることが出来ますことを、心から感謝いたします。

わが家にあつて、大石牧師より配信される書簡と、動画による礼拝にあずかり、心から感謝いたします。牧師とご家族をどうぞお支え下さい。

いま、世界中が新型コロナウイルス感染のために、第二次世界大戦以来の困難の中に置かれているということですが、日々伝えられる感染者数に心を痛めております。病に苦しむ方とのご家族、愛する家族を亡くされた方、職を失われた方、ひとり親の家庭など、さまざまな困難の中にある人々をどうぞ顧みて下さい。そして一日も早く治療薬の開発が進み、ひとりひとりの大切な命が救われますように切に祈ります。

病床にある姉妹をはじめ、すべての教会員を、どうぞ支えてください。「主よ、わたしたちに祈ることをおしえてください」、そう質問した弟子たちに対してキリストが言われたように、私たちを、今こそあなたに委ねて祈る者としてください。

「あなたは祈るとき、自分の部屋に入り、戸を閉じて、隠れた所においでになるあなたの父に祈りなさい。すると隠れたことを見ておられる父は、あなたに報いてくださる。またあなたがたが祈るときは、異邦人のようにくどくどと述べてはならない。異邦人は、言葉数が多ければ、聞き入れられると思いついでいる。彼らのまねをしてはならない。あなたがたの父は、願う前から、あなたがたに必要なものをご存知なのだ」(マタイによる福音書6章6～8節)

主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン